

## 広島大学のキャリア支援の取組

森 玲子

(広島大学キャリアセンター助教)

### 一 はじめに

広島大学では、建学の精神や基本理念五原則とともに、UI (University Identity) 戦略として「挑戦する意欲を持ち、行動を起こす人材が育つ大学」を掲げ、到達目標型の「教育プログラム」を導入するなど、学生が自分自身の夢や目標を持ち、自立した行動が起こせるような支援を積極的に進めている。「挑戦する、行動する」という姿勢は、大学のキャリア支援の考え方の基礎となっているものである。

一〇学部二一研究科、学部生約二一〇〇〇名、大学院生

四五〇〇名を抱える本学では、各学部（研究科を含む）に学生支援グループが設置され、広く進路・就職等の学生生活を支援する委員会を組織している。ここでは、担当教員と事務職員が配置され、学部の独自性に配慮したガイダンスの実施や情報提供、さらに同窓会等との連携・調整を積極的に実施している。

全学的組織としては、平成一〇年に「学生就職センター」を全国の国立大学（当時）に先駆けて学内措置で立ち上げた。平成一六年四月には「キャリアセンター」に名称変更し、組織の強化と支援の充実を図った。現在、専任教員二名、事務職員七名、非常勤キャリアアドバイザー三名の一二名体制で、キャリア支援に当たっている。

本稿では、法人化後のキャリア支援の現状とその課題について報告する。

## 二 キャリア支援の基本的考え方と特徴

### (一) キャリア支援の考え方

キャリアセンター、キャリア形成、キャリアデザイン学部等々多くの場面で「キャリア」という言葉が使用されるようになり、改めて言葉の定義が議論され始めている。

本センターでは、平成一六年一月に出された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」に基づき、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」ととらえている。つまり、「キャリア」を考えるとということは、「生き方」を考えることであり、個人・職業人・家庭人・社会人・地域人等として、自分らしく生きていく方法を考えることであるとの基本認識にたっている。この視点を共有するために、キヤッチフレーズを作成し毎月発行するキャリアセンター・ニュースに掲載している。

「キャリアを考えることは、生き方を考えることです。キ

ャリアセンターは、納得のいく進路・職業選択を通し生き方を考える、あなたを支援します」

### (二) キャリア支援の特徴

前項のキャリアという言葉の定義に基づくと、キャリア支援が目指すものは、学生一人一人が納得のいく生き方を実現することである。本センターでは、教職員が目的に対する共通認識をもち協力して業務に当たること、センターの責務を果たすことができると考えている。その理念に基づいた本センターのキャリア支援の特徴は、「総合的」「実践的」「早期」キャリア支援である。次にこれらの特徴を示す具体例をいくつか挙げる。

#### ① 「総合的」キャリア支援

専任の教員二名が、講義・相談・ガイダンスとあらゆる場面から「総合的」に教育・指導を行っている。そのため、相談での事例をガイダンスに反映するほか、講義での成果を相談に活かすことが可能となり、既成のプログラムの導入では実現できない、本学のその年度の学生の特徴や傾向を、すぐに教育・指導に反映できる。

### ② 「実践的」キャリア支援

キャリア支援の中で就職支援が果たす役割は大きい。キャリアセンターでは、六月から一月にかけて就職基本ガイダンス（一六年度二一回）と公務員ガイダンス（一六年度六回）、その後業界セミナー・企業セミナーを実施しており、昨年度は延べ七〇〇名を超える学生が受講した。自己理解から業界・企業研究さらにはエントリーシートの手書き方や面接のポイントなどについても具体的な指導をしている。また就職について、個別のアドバイスを必要とする学生は、原則予約制（一人一時間程度）で就職相談を利用できる。昨年度は八〇〇件を超える相談があった。

これら相談を担当するのは、センター専任教員と非常勤キャリアアドバイザーの五名で、いずれも長く民間企業等で仕事をし、人事・採用・教育・海外業務などの経験を持つ者である。最近様々な資格ができてきているが、資格を持つことが満足のいく相談のできる十分条件とはいえず、幅広い経験と広く多様な視野を持つことが求められているといえる。さらに、女子学生が約四割を占める本学において、社会における女性の現状を十分理解し、女性の多様な生き方をふまえた、女性の視点からのアドバイスは不可欠である。

### ③ 「早期」キャリア支援

生き方を考えるキャリア教育は、近年初等・中等教育機関においても積極的に実施されている。人が人として、自主的・主体的に生きていく能力を習得するには、適切な時期に適切なキャリア発達を行う必要があるとされる。そのためには外部からの働きかけ、つまり教育が不可欠である。その意味で大学においても、できるだけ早い時期のキャリアガイダンスが求められている。本学では、新入生のオリエンテーションや、教養ゼミ（大学で早く適応することを目指した一五回の指導）で「キャリア講座」をセンター教員が担当し、キャリア発達などについての考え方を講義する。今年度は八学部一研究科で実施し、延べ二二〇〇名の一年生に、キャリアについて話す機会を持った。さらに、各学部からの要請に基づいて、あらゆる学年と目的に応じた、キャリアを考える講義を実施している。

### 三 キャリア支援プログラムの内容

「総合的」「実践的」「早期」キャリア支援の考え方に基いて、大学生活を通してどう生きるかを考えてほしいという願いから、キャリアセンターでは、「一年次生から活用



キャリアセンター入り口

自分自身の体験や、本や人との出会い等様々な可能性がある。本学でも、いくつかの学部では、内定者や試験合格者による座談会や、卒業生による講演会を企画・実施し、身

③キャリア相談・就職相談  
本学では、チューター制度があり、学生は入学と同時に担任の教員を持ち、学習や生活など全般にわたり指導を受ける。また、「ピアサポートルーム」において、研修を受けた上級生が履修方法や学生生活について相談のつてくれる。本センターで行うキャリア相談では、進路選択やキ

近なロールモデルの提示の場を作っている。また、学部同窓会や卒業生の協力によるOB・OGによるセミナー等も実施している。  
キャリアセンターでは、昨年から、生き方を考える参考になるセミナーとして一・二年生の参加も可能な形での「OB・OGによるキャリアアセミナー」に力を入れている。これは、OB・OGをキャンパスに招き、現在の仕事を決めた理由ややりがい、また学生時代の過ごし方や就職活動の進め方等について話してもらい、在学生の質問にも応えてもらう形式で実施している。在学生にとっては、同じ研究室にいた先輩が、社会人として活躍している姿を目にすることで、真剣に考える刺激となるとともに、目的を持って学生生活を過ごすことの重要性にも気づく場として好評である。

できる進路・職業選択支援」と「三年次生からの就職活動支援」の大きく二つの支援を企画・提供している。(詳細は図参照)なお、図の下部の、各種相談・情報提供は、いつでも活用できるプログラムである。ここでは、主なキャリア支援プログラムとして、次の五点を概説する。

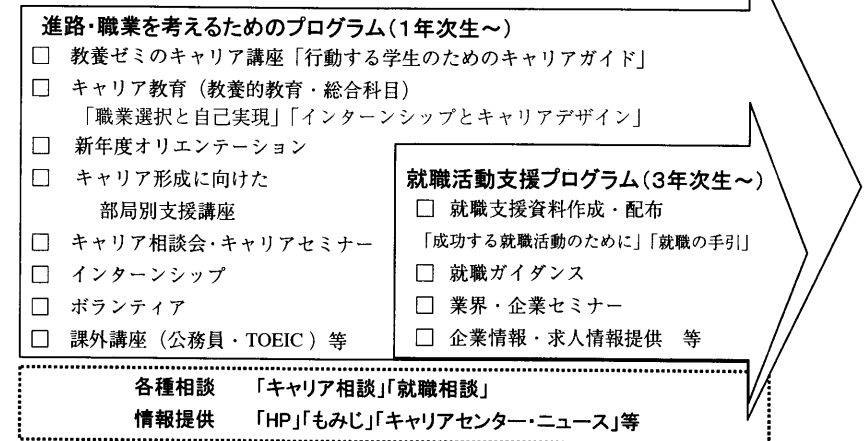
①キャリア教育

キャリアセンター専任教員は現在「職業選択と自己実現」「インターンシップとキャリアデザイン」という二講座を担当している。主に二年生を対象とした前・後期各二単位のこの科目では、自己理解と社会・現状認識を基に、自分らしく生きるために大学で何を学び、大学生活をどう過ごすのかを考え、キャリアデザインを開始する場となるような内容となっている。演習形式を取り入れ、自己表現力や論理的思考力、課題解決能力の育成も目指している。本学では、ボランティア論やベンチャー論をはじめとして、生き方や進路について考えるきっかけとなる授業内容を持つものは他にもあり、二年生で受講できる。

②キャリア相談会・キャリアセミナー

学生が生き方や進路について考えるきっかけとしては、

図 キャリア支援プログラム



キャリアプラン、またインターンシップに関する相談等を幅広く受けている。

#### ④ インターンシップ

本学では、「到達目標型教育」の中で、インターンシップの取り組みを積極的に進めており、学部によっては授業として実施しているところもある。本センターでは、広島大学が開拓したインターンシップと経営者協会主催のプログラム等を企画・運営している。

インターンシップの実施に当たっては、より高い効果をめざし事前事後の研修の充実や、実施前の計画書及び実施後の報告書作成と今後の課題の確認に力を入れている。

#### ⑤ IT化

大学全体としてIT化をすすめ、「もみじ」という学生情報システムを通して、進路や就職に関する情報を入手できるほか、ホームページの充実も図っている。学外からのアクセスを可能にし、より多くの情報を必要時にすぐ学生が利用できるようなシステムに改善済みである。またガイダンス等の情報伝達には、携帯メールを使用し、開催時間や場所など学生の利便性を考える工夫も行っている。



情報コーナー

#### 四 今後の課題

本センターが抱える今後の課題として、四点指摘したい。まず、大学全体による体系的なキャリア教育カリキュラムの構築があげられる。本学のキャリア支援において、キャリア教育の果たす役割は大きい。キャリア教育の意義や内容については、様々な議論がある。偏差値重視の大学受験の弊害や、モラトリアム傾向の強い若者に対して、進路や生き方を考えるきっかけを提供することは、大学においても教育の一つの柱であるといえる。すべての学生が早い時期に授業を通して、自分で考え課題解決に取り組む姿勢を習得できるようなカリキュラムが必要であると考ええる。

第二は、学部と本センターの連携の強化である。一年次生にキャリア講座を開講することは、早く生き方を考えるという視点から効果的である。しかし、学部によって連携度も違うのが現状である。今年度、その解消を目指して、各学部の進路・就職支援担当教員とセンター教員が個別に打ち合せをし、また担当事務職員を集めて意見交換会をもつなど、さらに緊密な連携を図るべく動きだした。

三つ目は、キャリア支援の資料の充実である。就職の手

引などの内容を検討改善するとともに、キャリアガイド的な冊子や参考資料の作成及び学生への配布を考えていきたい。この点は、私立大学において充実しており、本学の今後の課題といえる。

最後に、インターンシップの充実である。本学の場合、学生の就職先候補としての地元企業数が都市圏ほど多くないことや、インターンシップでお世話になる地元企業が就職先と結びつかないなど、実施に当たってのいくつかの課題も明らかになってきており、今後の更なる検討が必要である。

#### 五 おわりに

大学卒業後、就職したものの、数年以内での離職率の高さや、フリーター・ニートと呼ばれる若者の増加など、若年者の生き方や就業をめぐる課題は多い。大学としては目の先の就職率にとらわれることなく、教育と人間の成長という大学が本来持つべき機能と使命を再認識し、学生一人一人の納得・充実した生き方を支援する——それがキャリア支援の本質であるといえるのではないだろうか。